

復興への兆し

地域福祉課地域活動係長 森田 拓也

1. 復興イベントの動き

震災により、市・区のイベント関係行事は、神戸まつりを含めほとんどの中止が決定されたが、4月になり、気候もよくなってくると、沈滞した気分を吹き飛ばすかのように、民間主導による復興イベントが目白押しとなった。

中央区ボランティアが5月14日に総合運動公園で開催した「神戸わんぱくまつり」は、雨天にもかかわらず2万人の参加者を集め、また、中止となった神戸まつりの代わりに元町・南京町が意気込みを見せた「神戸5月まつり」、メリケンパークでの「元気復興祭」等が開催され、いずれも多数の参加者を集めた。中でも、毎年8月第3土曜日に開催されている「海の盆踊り」は、今年はサブテーマを「追悼そして復興」とし、神戸新聞社・神戸市婦人団体協議会・中央区海の盆踊り実行委員会の共催で開催され、5万人を集める盛況ぶりが全国にもテレビ中継されたことは記憶に新しい。今後の観光資源としての一層の活性化が期待されている。

2. 地域活動の復活

中央区内ではこれまで、自治会・婦人会・老人会・ふれあいのまちづくり協議会・PTA・青少年問題協議会・体育指導委員・民生児童委員・子ども会・路上駐車追放運動地区・防犯協会支部・交通安全協会支部等が、区役所や警察と連携しながら活発な地域活動を展開していたが、震災により、それらの活動はほとんど活動停止を余儀なくされた。

しかし、春から夏にかけて、それらの地域

団体は順次活動を復活し、震災後のまちづくりに取り組み始めた。灘・兵庫・長田等の激甚被災区に比べ、震災による地元組織弱体化の度合いは幸運にも浅かったといえるが、仮設住宅における自治組織の誕生や、震災以降、新たに中央区役所に居を構えたボランティアセンター等、全く新しい地域活動形態も誕生しており、今後、各地域活動団体の有機的な連携をすすめ、地域活動ネットワークの形成に努めていくことが求められている。

3. 復興まちづくり

①中山手3・4丁目地区

自衛隊解体班により早期に解体がすすんだ中山手4丁目地区では、早くも2月10日に、また、都市計画道路諏訪山線を挟んで東側に隣接する中山手3丁目では8月26日に、復興まちづくりを目指して第1回の地元集會が開催され、まちづくり手法の勉強会や仮設店舗作りが始まっている。区は当初より勉強会にも参加し、住民と一体となって積極的に復興まちづくりに取り組んでいる。

今後、両地区を併せて中山手3・4丁目地区とし、民間施行による約2haの区域のミニ区画整理・優良建築物等整備事業等による街区の一体的な復興をめざし、平成7年度は個別ヒヤリングによる地権者の意向把握と計画素案作り、平成8年度中には廃校となる北野小学校も取り込んで全体構想を確定し、正式な準備組織結成に向けて進んでいる。今後資金源となるデベロッパー探しや、どの時期に都市計画局等の事業部局

にうまく引き継いでいくのか等が課題となる。

②区復興プロジェクト

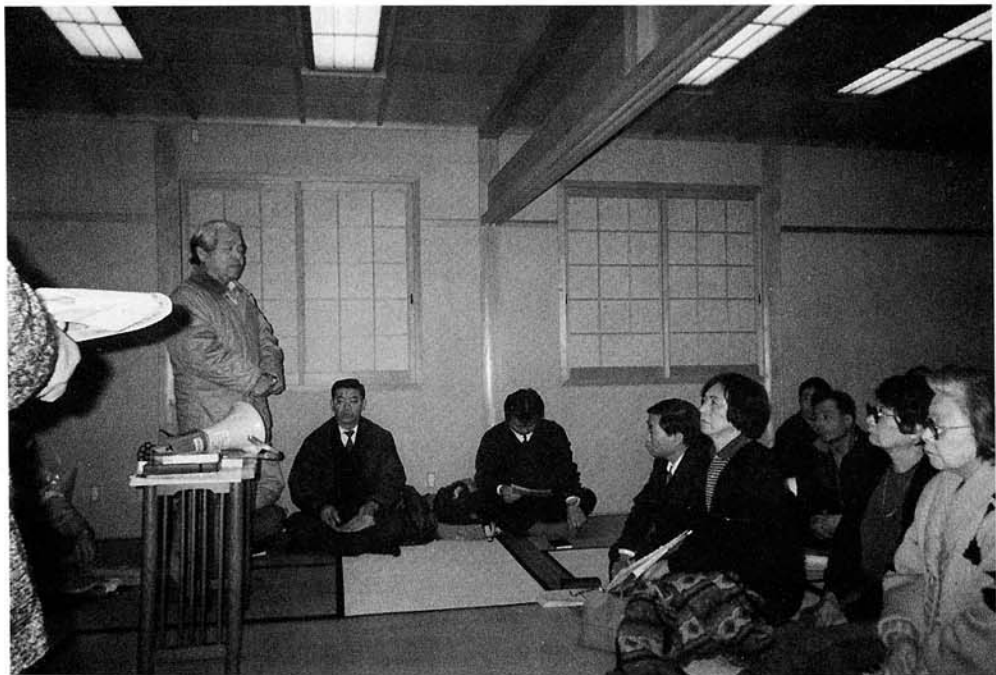
中央区内では、阪神・淡路大震災により、解体申請ベースで倒壊家屋が 4,500 棟（うち木造9割以上）に達している。これら家屋の復興にあたり、安全都市づくりの観点から、従来のような木造2階住宅・木賃アパート・ペンシルビルではなく耐震・耐火性に優れた住宅・店舗の建設を誘導し、また、より早く住民が区内に復帰できるための住宅施策や、人口急減のなかからよみがえるための商店街活性化施策が急務となっている。

震災直後から「震災復興まちづくりニュース」等によりこれらの復興支援施策を広報してきているが、いまひとつ住民にPRできていない現状のなかで、中央区としては、区役所が持っている地域住民との

直接的なつながりや、倒壊家屋・避難所データベース等の区管理情報を積極的に活用して、よりわかりやすいPRに努め、地元住民とともに最適な事業手法を探り、事業化に向けての地元研究会づくり等を通じて、本庁各事業部局や民間活力の参加につないでいくため、新たに復興プロジェクトチームを編成し、これに取り組んでいくことにした。

10月現在、区において都市計画法・建築基準法・ミニ区画整理（5ha→2haの要件緩和）・優良建築物・特優賃・特目賃等の事業手法の自主勉強会を区長・副区長以下管理職を中心に開始したところであり、外部スタッフとして、中部復興支援会議（都市計画局アーバンデザイン室+住宅局住環境整備課+コンサル等）等の支援を仰いでいる。

今後、区内事業候補地・モデル地区の選定や地元での勉強会により一層の推進を図っていく予定である。



中山手4丁目 第1回まちづくり集会（2/10）